

木の町熊野木工コンクールを開催しました！

熊野林星会 会長 野地伸卓

令和元年9月7日(土)から8日(日)に、熊野市文化交流センター(熊野市井戸町)において、熊野林星会主催による、「木の町熊野木工コンクール」を開催しました。

このコンクールは、木に親しみ、地域の基幹産業である林業に理解を深めてもらうため、毎年開催しています。

各部門とも優秀な作品が多く出展されており、特に小学生の部は力作揃いで、203人(小学生の部199人、中学生の部3人、一般の部1人)からの応募があり、熊野市長をはじめとした審査員による厳正な審査の結果、次のとおり入賞作品を決定しました。



厳正な審査の様子

小学生の部入賞作品

1位「イカ」

嶋 勇希君(金山小学校5年生)

2位「安土城」

笠置 大和君(有馬小学校6年生)

3位「ログハウス」

福田 建吾君(飛鳥小学校3年生)



小学生の部入賞作品

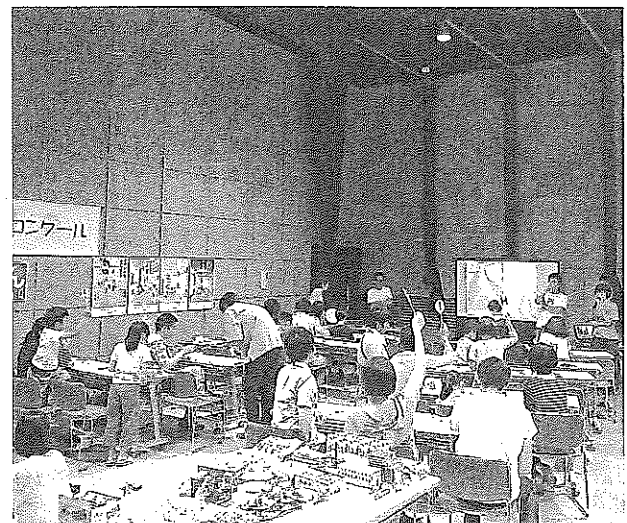


つみすぎ君で遊んでいる様子

また、今年度からは、体験型のコンクールを意識し、スギの木を組み合わせた「つみすぎ君」や、セーザイゲーム及びクップの体験コーナーを設け、子供から大人まで大いに木に触れてもらうことができました。

特に、セーザイゲームでは、親子連れなど10組約40人が参加し、原木の仕入れ、加工、販売の疑似体験を通して得点を競い合い、参加した子供達からは、「木取りはパズルみたいで楽しい」といった意見が寄せられました。

熊野林星会では、今後も木工コンクールなど様々な活動を通して、次世代を担う子ども達が、森や木に親しみを持ち、将来的に地域の担い手として活躍してもらおうきっかけになればと考えています。



セーザイゲーム

熊野木育プロジェクト企画「みんなで鶏舎を建てよう！」が開催されました

熊野農林事務所 林業普及指導員 木原 一 憲

平成31年3月16日(土)に、熊野林星会と三重大学の共同による熊野木育プロジェクトが、NPO法人「あそぼらいつ」のリトルファーマーズ農場で開催されましたので、その様子を紹介します。

◆熊野木育プロジェクトについて

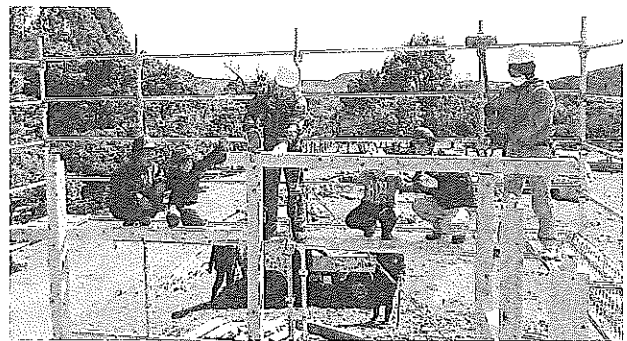
熊野林星会と三重大学が中心となり、熊野の基幹産業である林業・木材産業を子供達に伝えることで、地域産業への理解と熊野の子供達の中から将来の担い手が現れることを願い、平成28年度に熊野木育プロジェクトが立ち上がりました。平成30年度は設計・建築に関するプログラムとして「みんなで鶏舎を建てよう！」が開催されました。



講師の話を聞く子供達



大工さんによる指導



木造鶏舎建築の様子

◆熊野材で「みんなで鶏舎を建てよう！」の概要

当日は、NPO法人「あそぼらいつ」の学童保育に通う子供達約40人が参加しました。

はじめに、熊野林星会の野地良成副会長が、森林の機能や身近にある山の資源を活用することの重要性について説明しました。続いて、鶏舎の設計を手掛けた1級建築士の濱田直子さんが、図面をもとに木造軸組工法の仕組みや柱、梁及び筋かいなどの建築部材の役割について説明しました。その後、地元大工による柱の組み方等の実演を見学し、小学校高学年の生徒が、電気ドライバーで部材にネジを固定する作業を行いました。また、小学校低学年の生徒は、スギ板をノコギリで切り、金づちを用いて釘を打ち、鶏舎に取り付ける餌箱を製作しました。

子供達の頑張りにより、5時間ほどで熊野材を使用した縦横3.6m、高さ2.3mのヒナ用鶏舎が完成し

◆今後の取組について

熊野地域の林業・木材産業の未来を担う人材を自分たちの手で育てていきたいという地域の人々の想いは強く、“地域教育”としての木育プログラム構築を、地域の人々の手で実現しようという気運が高まっています。回を重ねるごとに完成度を増している、産業を見据えたこの木育プログラムは、全国的にも珍しく、県内外からの視察や問い合わせが増加しているそうです。今後の熊野地域の全小中高等学校への展開を見据え、現在、産学官民連携のもとでプログラムやコンテンツの充実が進められています。

プロジェクトメンバーである三重大学の坂本教授及び山本研究員は、「この熊野木育プロジェクトの水平展開を目的として、各種イベントでの宣伝活動や、他地域でのプログラム実施、学会や講演会、セミナーでの事例紹介といった周知活動にも力を入れていきたい」と力強く話されていました。

熊野林星会が全国林業グループコンクールで 林野庁長官賞を受賞しました！

熊野農林事務所 林業普及指導員 山本 和史

熊野林星会の活動が認められ、全国林業グループコンクールで林野庁長官賞を受賞しましたので、その報告をします。

◆熊野林星会の概要

熊野林星会は、昭和63年に木材産業の川上にあたる造林保育のグループと、川下にあたる製材業者のグループが合併し誕生しました。

その際に木材の運搬業者、建築、設計業者などが加わり、森林や木材に関わる様々な職種で構成された団体となっています。

現在、会員の平均年齢は52歳と、林業研究グループとしては比較的若いのですが、熊野林星会が誕生した後に新会員が加入することもほとんど無く、少しずつですが会員の高齢化が進んでいる状況です。

◆近畿ブロック林業グループコンクールでの発表

平成28年8月9日に、大阪府で開催された「平成28年度近畿ブロック林業グループコンクール」で、熊野林星会は三重県代表として活動報告を行いました。

熊野林星会の野地伸卓会長により「熊野生道 どれが熊野の生きる道」と題した活動報告が行われました。発表に際して、近畿府県からの参加者が集まっていることもあり「熊野とは？」というところから発表が始まり、七里御浜や熊野古道といった観光の名所の紹介、そんな中で熊野の山や林業に関する説明がありました。

その後、実際に熊野林星会が行っている活動について写真を交えての報告が続きました。地元の大工さんと連携して実施した、地元の木を使った親子の木工教室や木の町熊野木工コンクールを実施し、地元で木に触れることの大切さを感じられる活動についての報告が行われました。

また、新たな価値として、熊野にある日本最古の神社といわれている花窟（はなのいわや）神社にて、家を建てる際の大黒柱を祈祷する「大黒柱入魂祭」を実施し、観光客を媒体として熊野の林業や木材をPRする活動を実施していることが報告されました。

他府県の林業グループの様々な活動が報告される

中、熊野林星会の活動内容が評価され、「平成28年度全国林業グループコンクール」に近畿ブロック代表として活動報告を行うことになりました。

◆全国林業グループコンクールでの発表

平成29年2月27、28日に、国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）にて「平成28年度全国林業グループコンクール」が開催されました。

近畿ブロックで代表となった熊野林星会と同様に、全国の各ブロックで代表となったグループが発表する場となります。全国の代表の集まりということもあって、各グループの活動内容も各地域の状況に合わせた内容や、独自に工夫を凝らしたものでなっていました。

また、発表自体も非常に熱が入った発表が多く、活動に誇りを持って熱心に行われている事がよく伝わってきました。

熊野林星会の野地会長も熱心な発表をされて、最優秀にあたる農林水産大臣賞はどこが受賞してもおかしくない、といった印象を受けました。

結果として熊野林星会は残念ながら農林水産大臣賞を逃しましたが、林野庁長官賞を授与されることとなりました。



林野庁長官賞を授与された熊野林星会野地会長

今回のコンクールで他のグループの発表を聞き、色々とするものがあつたのではないのでしょうか。

熊野林星会の今後のますますの活躍に期待したいと思います。

地元熊野の木材で親子木工教室を開催しました！

～次世代を担う子ども達に木に親しむきっかけづくりを～

林業研究グループ「熊野林星会」会長 野地伸卓

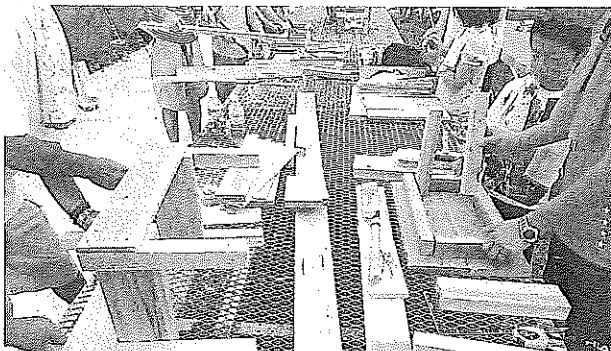
8月25日(日)、熊野林星会と建設労働組合紀南支部青年部の主催により、熊野市久生屋町にある市総合育苗センター「アグリス」で、親子木工教室を開催しましたのでご紹介します。

最初に、熊野林星会とは、造林保育従事者、製材業者、木材運搬業者及び建築・設計業者等の多様な業種が参画するグループとして、昭和63年に発足した林業研究グループです。

本会は、地域の人に地域の森や木に親しんでいただくことを目的に、毎年、植樹体験、親子木工教室などの活動に取り組んでいます。

今回は、夏休みの宿題(工作)を兼ねられるように、例年8月末の日曜日に開催している「親子木工教室」についてご紹介します。

当日は、しばらく続いた晴天から久しぶりに小雨降る日となりましたが、猛暑から打って変わって涼しいくらいの陽気となり、育苗センターのハウス内で作業するには丁度良い日となりました。そんな中、熊野市近隣から約100名の親子に参加してもらい、当会が用意した地元のスギ、ヒノキの板材・角材を使って、椅子、本棚、鳥の巣箱など、思い思いの木工作品の製作に取り組んでもらいました。



椅子づくりに取り組み中

この教室では、建設労働組合紀南支部青年部の職人さんが、電動鋸や電動かんな盤等を用いた加工のお手伝いやアドバイスをしてくれますので、レベルの高い作品が作れるというのが強みです。そのため参加者からは、本格的な作品づくりができるということで好評価をいただいております、例年、参加を楽しみにしている方もみえます。



難しいところは職人さんが手助けしてくれます

また、子ども達を対象に、丸太を決められた重さに切り落とす競争も併せて開催し、目標の重さに近かったものから順位をつけて、上位者の表彰と参加者全員に景品のプレゼントを行いました。子ども達は、普段使い慣れない鋸に悪戦苦闘しながらも、切り落とせた時には大きな歓声があがっていました。



丸太を決められた重さに切れるかな

また受付では、熊野農林事務所の林業普及指導員らによる『森のクイズ』が行われ、参加者には木に親しむだけでなく、県内の森林の状況や森のはたらき等についても考えてもらうことができました。

夏休み最期の日曜日、親子で参加する木工教室は、夏休みの良い思い出になるとともに、親と子が協力して一つの作品をつくるという共同作業を通して、家族のきずなを深めることができる良い取り組みだと感じています。

熊野林星会としては、今後もこのような活動を通して、次世代を担う子ども達に、森や木に親しみを持ってもらえるよう努力していきたいと思っております。